

グアテマラ経済(2009年2月)

平成21年3月
在グアテマラ日本国大使館

『2月の主な動き』

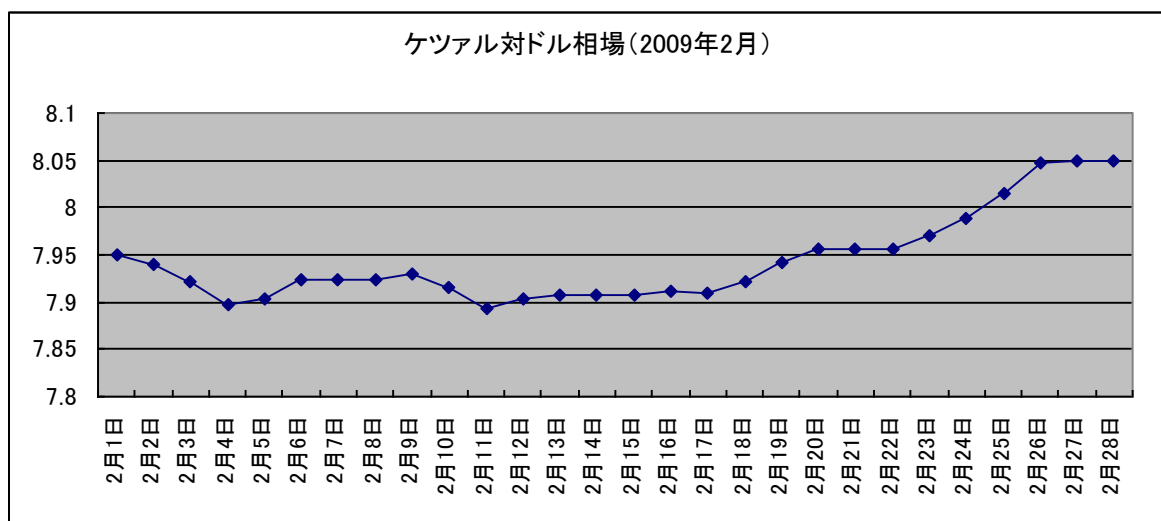
- 2月のケツアル対ドル相場は、1ドル＝7.89－8.05 ケツアルのレンジで推移。1月半ば以降のケツアル安ドル高がさらに進行し、4年ぶりに1ドル＝8 ケツアル台を記録。
- 2月、消費者物価指数は前月比-0.60%下落。年率(2008年2月～2009年2月)では6.50%の上昇となり、2009年のインフレ目標(5.5±1.0%(4.5－6.5%))内に収まった。
- 25日、国家金融審議会(JM)は、政策金利を7.00%から6.50%に引き下げることを選定。
- 中米経済統合銀行(BCIE)は、2009年のグアテマラの経済成長予測を1.8%－2.8%と発表。
- 09年1月の税収は前年同月比0.28%減、2月は同12.38%減に留まり、年度末には4,000百万ケツアル程度税収が不足するのではないかと懸念が報じられている。
- 2月、国会により計6件の新規対外債務案件(総額978.5百万ドル)が承認された。

1. 主な経済指標

(1) 為替レート(中銀) 2. (2) 参照

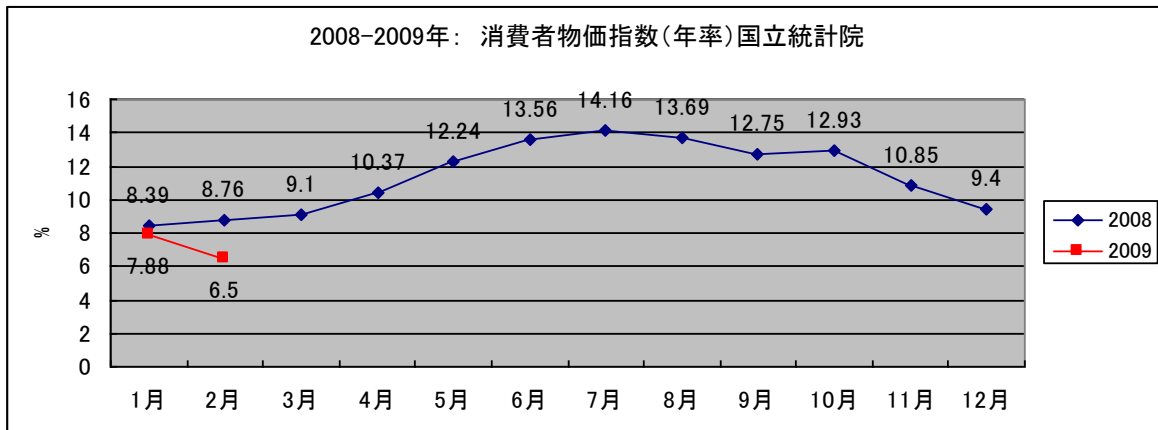
2月のケツアル対ドル相場は、1ドル＝7.89－8.05 ケツアルのレンジで推移。1月半ば以降のケツアル安ドル高がさらに進行し、4年ぶりに1ドル＝8 ケツアル台を記録した。

ケツアル安ドル高の急速な進行に対し、国内民間セクターからは懸念が表明されたが、中銀は市場介入を見合わせた。他方、25日、金融審議会(JM)は、今後、為替市場の動向が平時と比較して不安定であると判断された場合において、随時中銀による市場介入を行えるよう、為替市場介入に関する規則改正を行った。

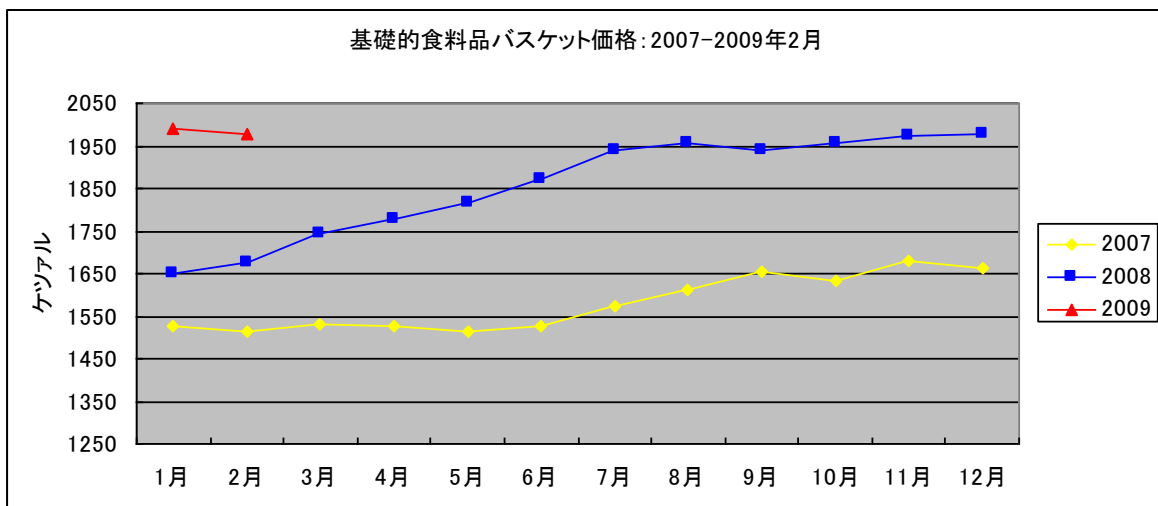


(2) 消費者物価指数(国立統計院 INE)

2月、消費者物価指数は前月比-0.60%下落し、2009年累積(1月～2月)では-1.01%の下落となった。消費者物価指数は、2008年12月以降、3ヶ月連続して前月比で下落している。また、年率(2008年2月～2009年2月)では6.50%の上昇となり、2009年のインフレ目標(5.5±1.0%(4.5-6.5%))内に収まる結果となった。



基礎的食料品バスケット(Canasta Básica de Alimentos: 1世帯5.38人分のカロリーとタンパク質の摂取を満たす最低限の食料26品目)の価格は、前月比Q11.01(約1.4米ドル)下落し、Q1, 978.10/月(約249.1米ドル)となった。他方、基礎的生活バスケット(Canasta Básica Vital: 基礎的食料品バスケットに、生活に不可欠な財と最低限のサービスを加えたもの)の価格は、前月比Q20.07(約2.5米ドル)下落し、Q3, 609.68/月(約454.6米ドル)となった。いずれも、年率換算では17.94%の上昇であり、消費者物価指数の上昇(年率6.50%)を上回る。



(3) 政策金利

25日、国家金融審議会(JM)は、政策金利を7.00%から6.50%に引き下げることを選定した。なお、先月(1月)、国家金融審議会は、政策金利を7.25%から7.00%に引き下げている。

国家金融審議会は、政策金利引き下げの理由として、①消費者物価指数が2ヶ月連続して(2008年12月及び2009年1月)前月比で下落するなど、国内のインフレは減速傾向にあり、世

界的な経済の停滞により、国内のインフレ圧力が今後も弱まると見込まれること、②原油、トウモロコシ及び小麦の国際価格の下落が国内価格に反映されつつあること等を挙げている。

(4) 貿易統計(中銀)

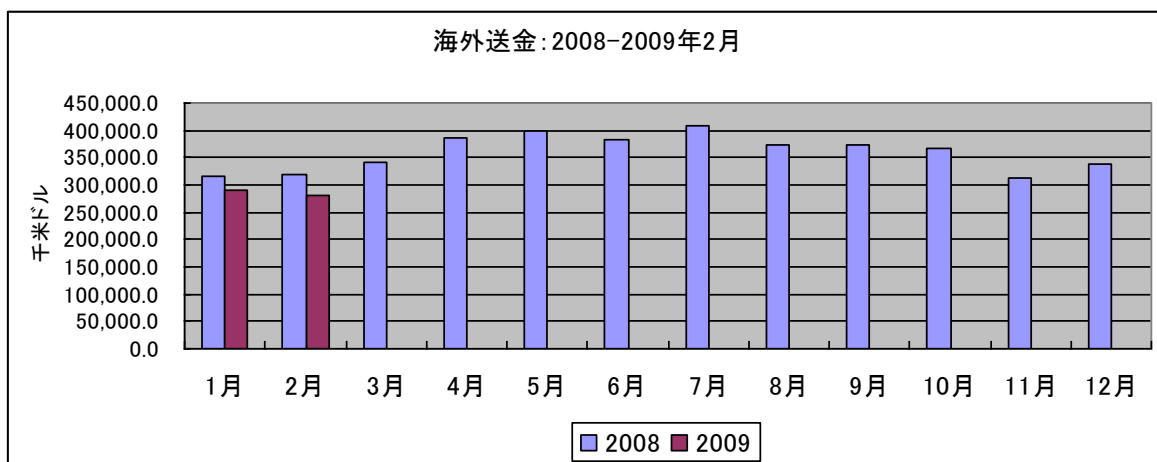
1月の輸出は600.8百万米ドル(前年同月比1.2%増)、輸入は840.4百万米ドル(前年同月比-26.7%減)に上った。

輸入の内訳では、原材料及び中間財の輸入が前年比-38.7%減の280.1百万米ドル(輸入に占める割合33.3%)、消費財の輸入が前年比-13.8%減の238.4百万米ドル(同28.4%)となっている。

(5) 海外送金(中銀)

2月の海外送金は、前年同月(318.3百万米ドル)と比較して36.4百万米ドル減(11.4%減)の282.0百万米ドルに上った。また、2009年1月から2月までの送金総額は572.2百万米ドルとなり、前年同期(632.9百万米ドル)を60.7百万米ドル下回っている(9.6%減)。海外送金は、2008年7月以降、前月比で減少する傾向が続いている。

他方、2月、米国から空路で強制送還されたグアテマラ人不法移民は2,101人に上り、2009年1-2月の合計は4,237人となった(前年同期比26.7%増)。



(6) 税収: 国税庁(SAT)

国税庁(SAT)によれば、2009年2月までの税収額は5,453.4百万ケツアル(約686.8百万米ドル)で、前年比5.58%減少した。

2009年度の税収目標は、2008年度を13.67%上回る38,448百万ケツアルとされている。しかし、2009年1月の税収は前年同月比0.28%減の3,240.2百万ケツアルに、2月は同12.38%減の2,213.2百万ケツアルに留まっており、年度末には4,000百万ケツアル程度税収が不足するのではないかと懸念も報じられている。

2. 国内経済トピックス

(1) 2009 年経済成長予測：中米経済統合銀行(BCIE) (2 月 2 日)

2 日、中米経済統合銀行(BCIE)は、2009 年のグアテマラの経済成長予測を 1. 8%-2. 8%と発表した。BCIE の予測は、中銀の予測する 2009 年経済成長率 3. 0-3. 5%を下回っている。

＜2009 年中米各国の経済成長予測：BCIE＞

	2008 年 経済成長率	2009 年 経済成長予測
グアテマラ	4. 0%	1. 8-2. 8%
ホンジュラス	3. 4%	2. 2-3. 2%
エルサルバドル	3. 2%	0. 8-1. 8%
ニカラグア	3. 9%	1. 1-2. 1%
コスタリカ	2. 9%	2. 9-3. 9%
パナマ	9. 2%	4. 7-5. 7%
ベリーズ	2. 8%	2. 8-3. 8%
ドミニカ共和国	4. 7%	2. 2-3. 2%

BCIE チーフ・エコノミストのロダス・マルティーニ氏は、世界経済危機の影響は中米各国に徐々に及んでおり、2009 年も予測を許さないと述べるとともに、今後、中米各国は、失われた時代と呼ばれる 1980 年代以来となる厳しい状況に陥る可能性が高いと指摘した。

他方、26 日、記者会見を開いた中銀のデ・ボニージャ総裁は、中銀の 2009 年経済成長予測(3. 0-3. 5%)を維持すると発表したものの、今後見直し(下方修正)を図る可能性を否定しなかった。

(2) 為替相場のケツアル安ドル高傾向

2 月のケツアルの対ドル相場では、1 月半ば以降のケツアル安ドル高が進行し、2004 年 8 月以来となる 1 ドル＝8 ケツアル台を記録した。

中銀は、為替の変動が中銀の設定する枠内(為替変動が 5 日間のうちに±0. 7%進行した場合において市場介入を行う)であったことから、市場介入を行わなかった。しかし、25 日、記者会見を開いたデ・ボニージャ中銀総裁は、同日開催された金融審議会(JM)において、為替市場の動向が平時と比較して不安定であると判断された場合には、随時中銀による為替市場介入を行うべく規則改正を行ったと報告した(JM-22-2009)。

他方、グアテマラ商業会議所(CGC)ブリッツ会頭は、ケツアル安ドル高の輸入に与える影響について懸念を表明するとともに、中銀が市場介入を見合わせているのは、国内輸出産業に対し不当に肩入れしているからであると批判した。なお、今般のケツアル安ドル高に関し、輸出や海外送金による外貨収入の減少に起因するのではなく、国内金融機関が海外(主に米国)の金融機関から得ているクレジットラインを一部清算し(報道によれば 300 百万米ドル相当)、米国への資金の環流が起こったことによると見られている。

(3) グアテマラの対外債務：新規対外債務案件の国会承認

2009 年度国会の開会以降 2 月末日までに、計 6 件の新規対外債務案件が国会により承認され、総額 978. 5 百万ドルを調達する目処がついた。

2008 年、政府は、総額 1, 144. 5 百万米ドルに上る新規対外債務案件(計 13 件)を策定し、各国際金融機関と合意した。借入先による内訳は、米州開発銀行(IDB)が 900. 5 百万米ドル、世銀(BIRF)が 235 百万米ドル、中米経済統合銀行(BCIE)が 9 百万米ドルとなっており、受け取りが複数年度に跨る債務案件も含まれている(最長で 5 年間、2013 年度まで)。1 月に 2009 年度国会が開会して以降、2 月末日までに 6 件が国会により承認された(総額の 85. 5%)他、残る 7 件のうち 1 件については国会の財務委員会で協議が行われており、その他 6 件についても国会への提出に向けた準備作業が進められている模様。

なお、2009 年度国家予算の歳入部分のうち、516. 1 百万米ドルについては、これらの新規対外債務案件により調達する見込みとなっていたが、488. 3 百万米ドル(94. 6%)については財源が確保された。

2 月末日現在、グアテマラの累積対外債務高は 4, 336. 4 百万米ドルに達したが、外貨準備高は 4, 742. 3 百万米ドルに上り、対累積対外債務高比で 109. 4%を維持していることから、これまでのところは比較的健全なマクロ財政が維持されていると言える。

3. 対外経済トピックス

(1) 中米5カ国の貿易動向：SIECA「統計報告 17. 1 号」

1 月 29 日、中米経済統合一般条約常設事務局(SIECA)は、中米 5 カ国の貿易統計を総括する「統計報告(Boletín Estadístico)17. 1 号」を発表した(マキラ産業(保税加工区)からの輸出入統計は含まれない)※。

<中米5カ国の貿易動向> 単位:百万米ドル

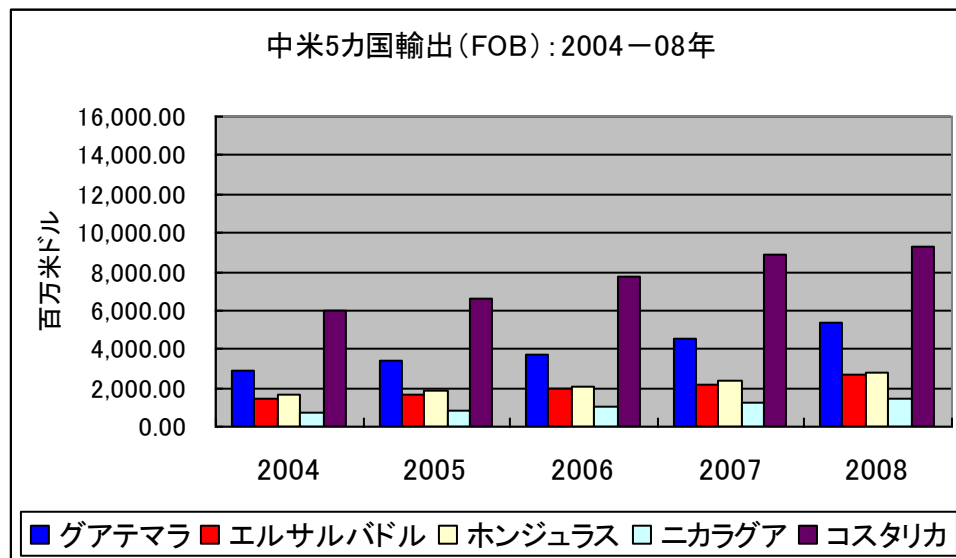
・ 輸出

※「統計報告 17. 1 号」のデータの出典

2004 年-2007 年:各国中央銀行・担当省庁発表の公式データ(暫定値)

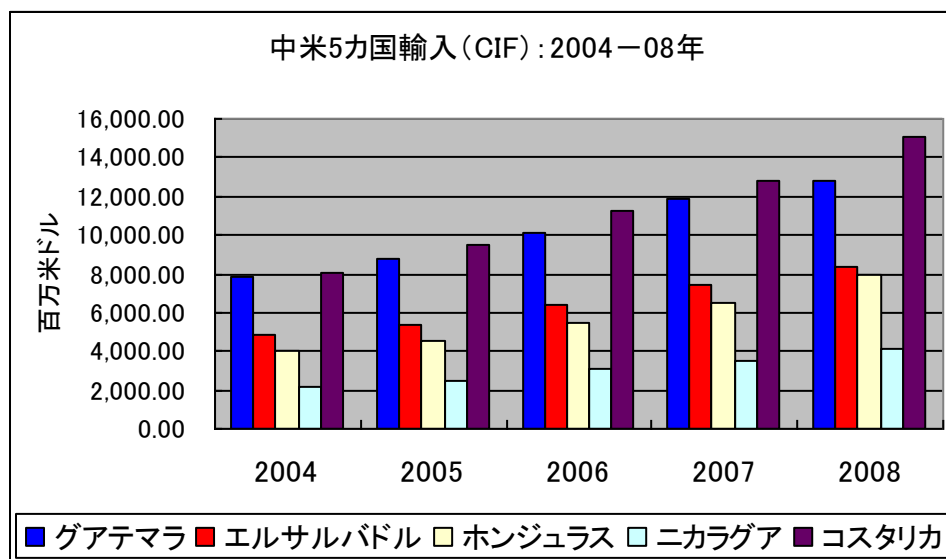
2008 年1月-11 月:各国中央銀行・担当省庁発表の公式データ(暫定値及び推定値)

2008 年 12 月:SIECA 算出の推定値



	国名		前年比
1	コスタリカ	9, 286. 96	4. 0%
2	グアテマラ	5, 410. 09	19. 5%
3	ホンジュラス	2, 833. 90	18. 5%
4	エルサルバドル	2, 655. 45	21. 9%
5	ニカラグア	1, 464. 31	22. 6%

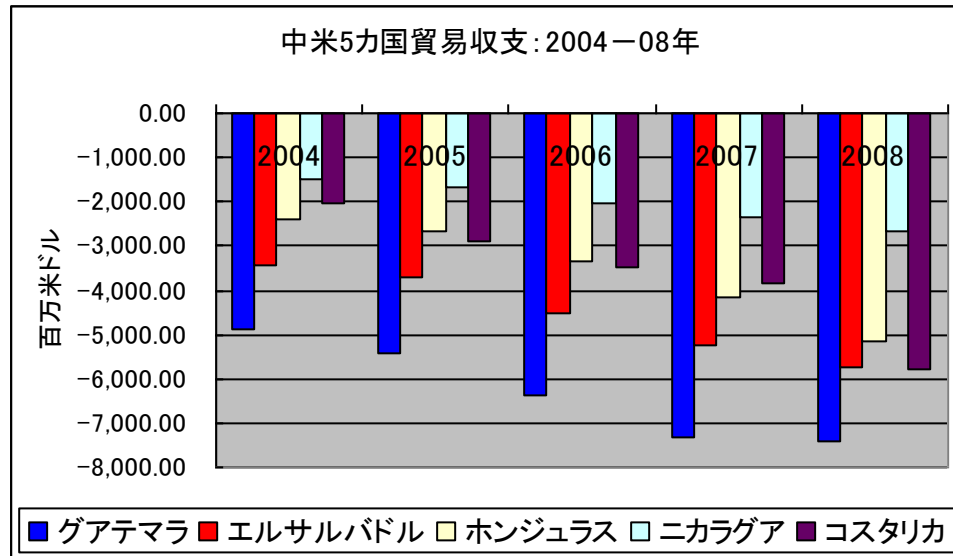
・ 輸入



	国名		前年比
1	コスタリカ	15, 086. 81	18. 3%
2	グアテマラ	12, 834. 10	8. 3%

3	エルサルバドル	8, 377. 53	12. 6%
4	ホンジュラス	7, 985. 40	22. 2%
5	ニカラグア	4, 109. 78	16. 1%

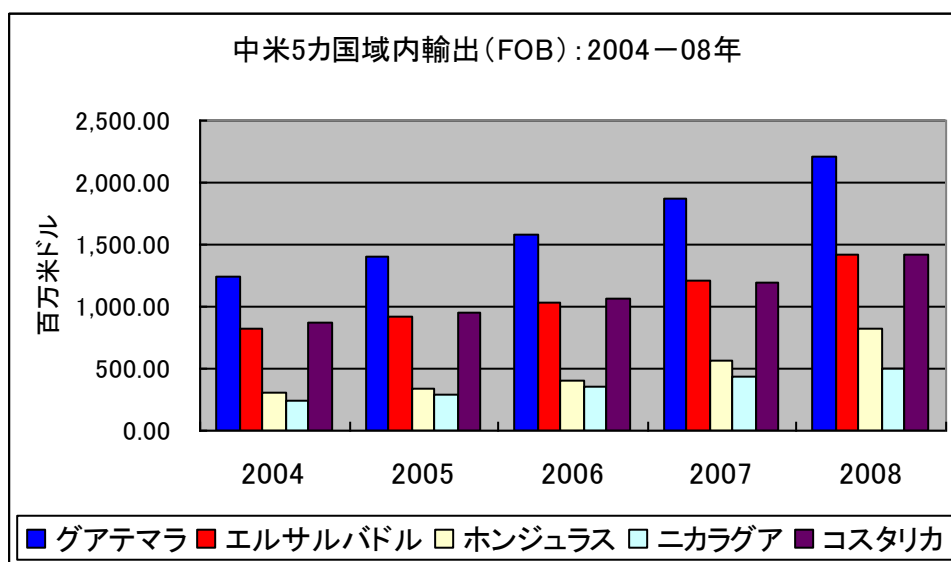
・ 貿易収支



	国名	
1	ニカラグア	- 2, 645. 47
2	ホンジュラス	- 5, 151. 51
3	エルサルバドル	- 5, 722. 08
4	コスタリカ	- 5, 799. 85
5	グアテマラ	- 7, 424. 01

< 中米5カ国の域内貿易動向 > 単位:百万米ドル

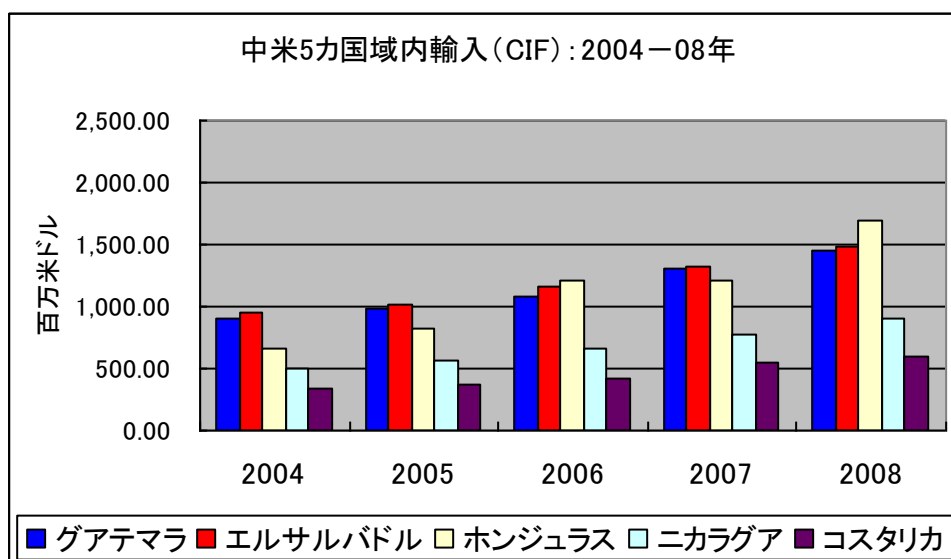
・ 域内輸出



	国名		前年比	域内輸出/輸出
1	グアテマラ	2, 212. 65	18. 0%	40. 9%
2	エルサルバドル	1, 425. 71	18. 5%	53. 7%
3	コスタリカ	1, 413. 68	19. 1%	15. 2%
4	ホンジュラス	828. 12	47. 5%	29. 2%
5	ニカラグア	493. 12	14. 0%	33. 7%

域内輸出高が高いのは、エルサルバドル、グアテマラ及びコスタリカである。また、エルサルバドル及びグアテマラは、域内輸出高の輸出高全体に占める割合(域内輸出に対する依存度)が高い。他方、コスタリカは、域内輸出の輸出全体に占める割合(域内輸出に対する依存度)が低い。

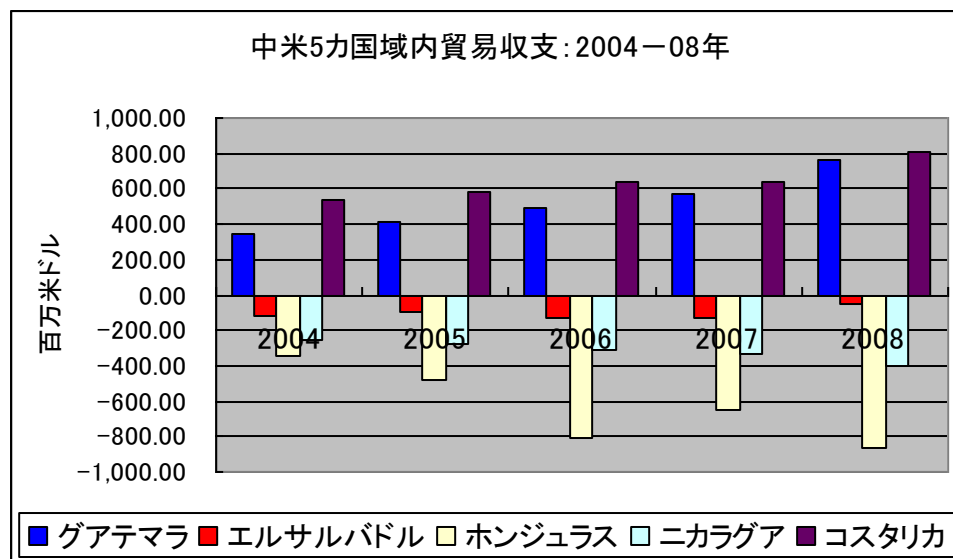
・ 域内輸入



	国名		前年比	域内輸入/輸入
1	ホンジュラス	1, 689. 82	39. 0%	21. 2%
2	エルサルバドル	1, 478. 85	11. 2%	17. 7%
3	グアテマラ	1, 455. 11	11. 6%	11. 3%
4	ニカラグア	896. 19	16. 3%	21. 8%
5	コスタリカ	602. 09	9. 6%	4. 0%

域内輸入高が高いのは、ホンジュラス、エルサルバドル及びグアテマラである。また、ホンジュラス及びエルサルバドルについては、域内輸入高の輸入高全体に占める割合（域内輸入に対する依存度）が高い。他方、コスタリカは、域内輸入高が低く、域内輸入の輸入全体に占める割合（域内輸入に対する依存度）も低い。

・ 域内貿易収支



	国名	
1	コスタリカ	811. 59
2	グアテマラ	757. 54
3	エルサルバドル	- 53. 14
4	ニカラグア	- 403. 07
5	ホンジュラス	- 861. 70

(2) 中米5カ国の金融機関への外資参入の状況：週刊「モネーダ」紙

経済専門の週刊「モネーダ」紙(16-20 日付)は、中米5カ国の金融機関(銀行部門)に対する外資参入に関する特集記事を掲載した(2008 年 12 月 31 日現在)。

＜中米5カ国の銀行部門への外資参入状況＞

中米5カ国（グアテマラ、エルサルバドル、ホンジュラス、ニカラグア、コスタリカ）には 71 の銀行があり、総額 64, 119 百万米ドルの金融資産を保有している。全 71 行のうち、外資が参入している銀行は 39 行であり、外資が参入していない銀行（地場銀行）は 32 行である。また、外資が参入している銀行が保有する金融資産は、およそ 29, 000 百万米ドルに上っている。

	総行数	外資が参入している行数
エルサルバドル	12	10 (Scotiabank, Bancolombia, HSBC, Citigroup 等)
ニカラグア	8	5 (Citigroup, GE Consumer Finance, HSBC, ProCredit 等)
ホンジュラス	17	9 (HSBC, Citigroup, Azteca, Lafise, Promerica 等)
コスタリカ	16	8 (HSBC, Scotiabank, Citigroup, Promerica, Lafise 等)
グアテマラ	18	7 (Citibank, Azteca, GE Consumer Finance 等)

中米5カ国のうち、銀行部門への外資参入が最も進んでいるのはエルサルバドルである。エルサルバドルには 12 の銀行があり、総額 13, 479 百万米ドルの金融資産を保有しているが、うち外資が参入している銀行は 10 行に上り、総額 12, 865 百万米ドルの金融資産を保有している（総金融資産の 95. 4%）。なお、エルサルバドルで外資が参入していない銀行は、2行とも政府系金融機関である（Hipotecario、De Fomento Agropecuario）。他方、グアテマラの銀行部門は、地場銀行（ローカル資本）の占める割合が他の4カ国と比較して高く特徴的である。

＜中米5カ国の資本タイプ別金融機関ランキング（保有する金融資産で評価）＞

・外資が参入している銀行 単位：百万米ドル

	銀行名	金融資産
1位 (中米3位)	Agricola (エルサルバドル) 出資：Bancolombia (コロンビア資本)	3, 857
2位 (同 7位)	Citibank de El Salvador (エルサルバドル) 出資：Citigroup (米国資本)	2, 698
3位 (同 9位)	HSBC Salvadreno (エルサルバドル) 出資：HSBC (英国資本)	2, 150
4位 (同 10位)	Scotiabank de El Salvador (エルサルバドル) 出資：Scotiabank (カナダ資本)	2, 086
5位 (同 11位)	BAC San Jose (コスタリカ) 出資：GE Cosumer Finance (米国資本)	1, 879

・地場銀行 単位：百万米ドル

	銀行名	金融資産
1位 (中米1位)	Nacional de Costa Rica(コスタリカ)	5, 371
2位 (同 2位)	Industrial(グアテマラ)	4, 641
3位 (同 4位)	De Costa Rica(コスタリカ)	3, 555
4位 (同 5位)	G&T Continental(グアテマラ)	3, 300
5位 (同 6位)	De Desarrollo Rural(グアテマラ)	3, 146